

Title	小売業態展開の比較研究-韓国と日本を中心として-
Sub Title	
Author	成東妍(Son, Donyon) 池尾恭一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1351号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1351

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小売業態展開の比較研究
—韓国と日本を中心として—

本論文では韓国と日本の小売業態展開の比較研究に取組むにあたって、2つの課題を設定している。ひとつは、研究の発端となった日本型GMSの失敗原因の解明である。もうひとつは、韓国で日本型GMSが失敗した原因解明の結果に基づき、韓国へ進出しようとしている外資系・多国籍小売業者や、新しい業態を展開しようとする韓国小売業が成功・発展をするためのインプリケーションを提示することである。このためベインの産業組織論をベースに1)流通業の発展過程の比較、2)商業統計を利用した構造比較、3)企業ケース分析を通して研究を進めた。

両国流通業の展開過程の共通点として①大衆消費市場の形成まで長いタイムラグ存在、②二重構造が長期間存立：一握りの大規模百貨店と膨大な中小小売店、③「小売の輪」のような展開がみられない：百貨店以降小売業態革新が一気に到来。相違点として①韓国は中央集権、日本は封建制、②卸売業が成長できなかった、③韓国は展開過程において逆行現象がある。構造比較の結果として①零細過多の規模構造、②業種・業態構造の類似性、③高い製造業による垂直統合率、④ソウルへの高い一極集中、⑤W/R比率が低い、etc。以上の調査結果をふまえ明らかになった日本型GMSの失敗要因は、Ⅰ大衆消費市場が形成される直前、Ⅱ価格帯、品揃において百貨店と直接競合、②価格競争力もてず：運営方式同じ、卸売業の不在。

流通業もグローバル化という変化の下、競争激化が予想され既存の製造業中心の流通構造では効率性の維持が困難である。従って小売業による卸売機能の遂行を提言する。しかし、卸売と小売では最適品揃え・規模が違うので非効率性が発生するので、非効率性が発生しにくい業種や業態を選択、開発が成功のために必要不可欠であろう。